

夢サラダ Vol.50

2012.1.1 発行

市民活動の拠点を目指しています。
「今治市民活動センター」
指定管理者：(特非) 今治NPOサポートセンター
【お問合せ】TEL/FAX 0898-25-8234
E-mail imanpo@nifty.com



高校生目線でNPOを伝える！ 市民活動リポーター ～思いをカタチへ～

「地域課題を解決したい」「暮らしやすいまちにしたい」
様々なNPOの思いをカタチにしようと始まったプロジェクト。

「伝えたいけど、伝わらない」NPOの現場から聞こえる声。
ならば・・・、私たちが伝えるお手伝いをしよう！！
伝書鳩として活躍した高校生の活動を報告します。

ボランティア・NPO

- ・広報がうまくいかない
- ・何を、どう伝えたらいいのかわからない
- ・発信は大切だけど、後回しになってしまう

市民活動リポーター

- ・色々な人と出会いたい
- ・日常（学校等）とは違う接点が欲しい
- ・新しい発見がありそう

市民活動を応援する「今治市民活動センター」事業のプロジェクトの一つには
高校生を中心に12名の市民ボランティアが参画。幅広く活動する団体の“今”を
事前に学習し、実際に体感し、全員で共有し・・・メッセージは伝書鳩のごとく羽ばたいた！



事前学習の様子

愛媛新聞社今治支社編集部長の鈴木孝裕さんに取材の基本、文章を書く手順や方法を学んだ。

「センスではなくテクニックが必要」と、具体的な指導を受け、取材に対する心構えや取材相手に対してのマナーなどを理解することができた。

「知るということが大事」「知らなかった自分と知った自分は間違いなく違う」との活動へのエールを受け、取材活動がスタートだ！！



プロの記者の技・アレコレ伝授。ペン、メモの使い方は早速、取り入れることに。



「記事化する“5w1h”」、「結論をコンパクトに」等、ポイントはメモをとりながら聞き入る。

活動の様子

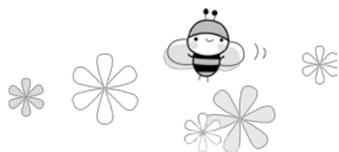
チラシや新聞等を手に取り、自分達が応援したい団体を選んだ。「どうしてこの活動をしているんだろう」思いを巡らす様子は“未来を考える”作業のようだった。質問項目を一つ一つ丁寧に考え、いざ、現場へ。手づくりの名刺を渡し、マイクを向ける姿は立派な記者のよう。活動に参加させてもらう場面もあり、貴重な経験となった。



↑放送機材も充実。彼らは“放送部”なのです☆

団体の代表、メンバー、参加者→老若男女に話を聞くことができた

取材後、メモを見ながら原稿用紙に向かった。何度も何度も書き直し、「伝える」と「伝わる」は違うということ体感したよう。縁あってつながった市民リポーターと団体の思いのカタチをどうぞお読みください。



能—人間を描く芸術— ～観世流・能楽師 大亀藤英さんに聞く、伝統芸術・能～

能の普及、伝承を目的に活動する「橙黄会」。代表の大亀藤英さんは東予でただ一人の観世流の能楽師だ。能に親しむ人の裾野拡大が使命と、団体を設立。日常的な謡・仕舞の稽古、定期的な能の発表会への出演などに取り組んでいる。今、特に力を入れているのは年に1回主催している「今治能」。プロの能楽師を招き、本物の能に親しむ機会として、今治に根付かせたいと意気込む。大亀さんにお話を伺った。

人間の陰の心を扱う能

人間の心を扱う「能」。特に人間の心の「陰＝悲しみ、苦しみ、怨みや嫉妬など」を取り扱う。人間の内面は限りなく複雑で、それを表現する能にも限らない深みがある。この魅力は体験した者にだけ、沸きあがってくるもので言い表しがたいものだ。



▲少年談「大亀先生は、能の魅力がわかる素晴らしい先生だ。」



最高齢の方が楽しむ姿が嬉しい

教室には90歳を過ぎた方が習いに来られていて、「こんなに年をとってから、こんなに楽しめるものがあって本当に嬉しい」と言ってくださった。その言葉を聞き、この活動に取り組んでいて、本当によかったと感じた。「今治能」に足を運んでくれる人の感想も力になる。鑑賞後、「来年も是非来たい」と声をかけてくれた時、やりがいを感じる。

苦労もあったと思うが、苦労を苦労と感じない。何かを成し遂げようとする時、その途中で苦労があるのは当たり前で、苦労があるからこそ後に感じられる喜びは大きい。



▲生徒談「いつまでも楽しむためには勉強第一」

今治を本格的な能が見られる街へ

今年で5回目の開催となった「今治能」の定着だ。年に1回は「能」が鑑賞できるまち・今治。そんな文化水準のあるまちを目指したい。たくさんの人に能を体験してもらい、また、一人でも多くの人に能の魅力を知ってもらいたい。大きな目標は、後継者探しだ。今治から能楽師を目指す人が出てきて欲しいと願う。



▲生徒談「こども教室からずっと続けている。能は本当におもしろい。」



橙黄会

今治市枝掘町2-2-5 ☎0898-22-0721 (大亀)

編 集 後 記

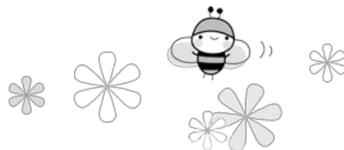


嫁ぎ先で勧められてはじめて「能」。嗜む程度のつもりから、プロの能楽師になった大亀さん。大亀さんに続く後継者が生まれればと願うという言葉には、ちょっとしたきっかけが人生の転機になるということを感じさせていただいた。

初日の取材の日は、小学生が練習に励んでいた。誘われてはじめて「能」だというのが、「身体を激しく動かさない静かな動作が気に入った」と、能の魅力をもっと自分のものにしていく言葉に脱帽だった。身近にいる師匠・大亀さんを慕う子ども達。プロの能楽師が今治にいることが財産だと感じた。

今年は、7月8日に今治能を予定しているそうだ。大亀さんは、取材中、度々、「能の魅力は体験せねばわからない」と話していた。私は、来年県外へと出てしまうので、必ずとは言えないのだが、是非帰ってきて見に行きたいと思っている。

西岡舞 高橋裕美



よみがえれ！ボクのカラダ ～全国シェアNo.1の今治タオルの躍進～

今治の特産品・タオル。“今治タオルを使って手軽に健康づくり”をコンセプトに活動する団体がある。全国生産シェア No.1 の今治タオルが海外のシェアに押されつつあった、まさに渦中の2000年に設立した「今治タオル体操愛好会」だ。会員150名は、ほとんど女性。「まちを元気にするのは女性の力」と笑顔で話す、代表の渡辺小百合さんに活動の魅力聞いた。

タオル1本でまちおこし

タオル1本あれば、いつでもどこでもできる体操。手軽さをウリに発信を続ける「今治タオル体操」。地場産品を全面に押し出した活動は、昨今の健康志向にもマッチし、ジワジワと定着しつつある。

去る10月2日には「今治タオル体操コンテスト」を開催した。設立当時に開催していて、途中、開催を見送っていたイベントを3年前に復活。今治タオル体操普及を目指した市民参加型のイベントだ。規定部門・創作部門に分かれ、練習をしてきた体操を舞台上で披露する出場者の皆さん。今年度も大勢の観覧者でにぎわった。「今治タオルフェア」に合わせた開催で、会場周辺がタオル一色の活気に包まれる。



男女共同参画社会実現の勉強会がきっかけ

1999年、「男女共同参画」を推進する委員会のメンバーが、持続的にまちおこしに関わろうとアイデアを出したことが活動の契機だ。地場産品・タオルを体操で活用する発想は女性ならではの。「どんなメロディーにのせようか」、「衣装も大事よね」、現場は女性ならではの視点で創意工夫が進んだ。楽しい現場には人が惹きつけられる。音楽編集、体操のアレンジ、と地元の専門家にも協力者が出た。

木山音頭のメロディーで身体を動かす「タオル体操」。保育園での出前体操、イベントでの披露など、老若男女に体験いただいている。高齢者が無理なくできる「座位編」、高校生を中心に躍動感溢れるスタイルで人気の「ニューバージョン」等、バリエーションも生まれてきた。「参加者の様子を見て、体操の仕方を変えるんですよ」、出前体操で気をつけているのは参加者との一体感。ここにも工夫の心意気がある。



▲リポート中に小学生と一緒に体操！

「ダイエットに効くの？」とよく聞かれるけど…。有酸素運動の効果は20分から！ということとはタオル体操3分×7回かあ…。(笑)

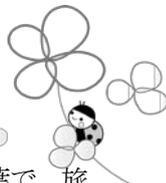


全国放送！またも決定！
「たけしの家庭の医学」
1/17 (火) 放送予定。

▲かっこよく決まったジュニアの演技！

- 目標3本柱 ①女性のチカラをまちに
②全国シェア1位の今治タオルのPR
③市民の健康増進

目標達成を支えるのは、地域の子ども達かも！



夢は世界発信

いつでもどこでもタオル1本！そんな合言葉で、旅先で出会った人と体操をしたこともあるメンバー一同。しかも、それは異国の方というから驚きだ。言葉の壁を越えて繋がった経験は、タオル体操の魅力を確認する機会となった。

世界発信も夢ではない。先般は、NHKの全国放送で活動が紹介され、多くの方に反響をいただいた。元気よくタオルを振りながら入ってくるインパクトに、モニターに釘付けになった人も多かったのではないだろうか。

手づくりで進めてきた活動。次世代へ繋ぐために、当面の目標は「男性の会員を増やすこと」！2011年10月から、別宮公民館において、男性向けの教室も始めたそう。

今治タオル体操愛好会の動きに目が離せない。

今治タオル体操愛好会 090-7574-8671 (渡辺)

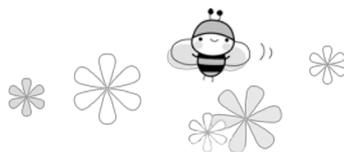


編集後記

「今治タオル体操愛好会」のパンフレットをみて、エネルギーがビビッと伝わってきて取材先を選びました。取材先では、体操の練習をする子ども達に振り回されちゃいましたが、今治タオル体操コンテストの審査員をさせていただく経験もあるなど、とても楽しい活動でした。

放送部の所属しているので、ラジオでの発信は自信あり！うまくできたかなって思います。でも、この「夢サラダ」づくり・・・原稿を書くのって、かなり大変でした。やっけていて忍耐力がついたかな！それをテスト勉強にいかします！

浅海和花奈 上野桃子 齋宮健吾



飼い主が変わる！社会が変わる！ ～犬と人間の関係を問う活動 K9クラブ今治～

「犬ほど人のために働く動物はいない」 こう話してくれたのは K9 クラブ会長の小林輝紀さん。K9 クラブは、犬の習性を知り、正しく飼い方を知ってもらおうと活動する団体だ。2001 年から今治市を拠点に活動をはじめ、松山市、西条市に会員が広がっている。「犬を飼うこと」の責任を地道に伝え続ける K9 クラブの取り組みについて、お話を聞いた。

ペットブームの陰で

年間に「殺処分」される犬や猫の数。何と年間30万匹にのぼる。先進国ではワースト1と言われる。「ここにいる犬や猫は、殺されるために生まれてきたのだろうか」そんなメッセージを投げかける小林さんに誘われ、「愛媛県動物愛護センター」を訪れた。今治市から松山市奥道後に抜ける県道沿いにあるこの施設は平成14年に開所した。2010年、この施設で「殺処分」されたのは約1500匹。幸いなことに年々減少傾向にある。

「覚悟をして見てください」、そんな声を職員の方にいただき、処分を待つ犬、猫の施設に足を踏み入れた。首輪がついているものもいた。聞くと、以前は飼われていた犬が多いという。啞然としたのは、「もう飼えないから」と飼い主が持ち込み、捨てた犬と記念撮影をして帰る人もいたとか。人間の身勝手のために、ただ死んでいく犬や猫。不条理さを痛感する。



▲「殺処分数がゼロになるまで、この仕事を続ける。それが使命です」そんな職員のお一人の言葉を紹介してくれた。

時代の要請として

「犬のしつけをする」、「愛護センター」見学前と後では、K9クラブの活動の必要性への認識が大きく変わった。犬を飼うという覚悟を飼い主に伝える意義は大きい。「ほえる」「かみつく」・・・ただ「かわいい」と飼い始めた飼い犬への悩みを抱える飼い主は多い。プロのトレーナーに預ける手はあるが、飼い主の指示には結局従わない、そんな結末がおこる事例は意外に多い。飼い主をボスとして慕い、指示に従うこと信頼関係の構築が重要だ。

飼い主と犬の信頼関係。「しつけができ、最後まで責任を持って飼うことができる人しか、犬を飼えない」、実はオーストラリア等ではこれが犬を飼うこと的前提条件だという。どうも日本は根本的に姿勢が違うようだ。

地域へのメッセージは犬と人間の関係

活動をはじめて10年が経とうとしている。飼い主へ犬の習性を伝え、マナーとモラルが向上する活動は、犬と人間が共生できる地域づくり活動として認知度があがりつつある。会員は県下で1500人。活動当初は、犬のトレーニング会場を借りるにも苦労したが、昨今は随分理解が深まった。

毎週日曜日の定例のしつけ教室は、指示を忠実に守る犬の姿がある。2カ月に1回は、飼い主と犬の運動会も開催するなど、楽しい企画も目白押しだ。「どんな問題行動のある犬でも、必ずよくなる」、小林さんの眼差しはやわらかい。



▲今治市内で行っている練習風景。真剣そのもの。



▲見ているだけで楽しいイベントも！一斉に“シット(オスワリ)”する日本記録達成は大盛況でした。

K9クラブ今治 <http://www.k9club-imabari.net/index.html>

☎090-9559-6203 (越智)

編集後記

「犬のしつけをするボランティア団体がある！」これが大発見だった。お話を聞いて、さらに発見！犬と人間の関係の深さ、そして代表の小林さんの使命感。小林さんは背筋のピンと伸びた、笑顔の優しいお父さん。お歳を伺うと、78歳になるという。パワーの秘訣は、何なのだろう……。取材中、圧倒されっぱなしだった。

犬のことだけでなく、海外の事情や経済のこと、何だかもっと別のこともどんどん聞きたくなるような興味深さがあった。また会ってお話を聞かせてください。

岩本将太 丹下大輔 越智祐吾